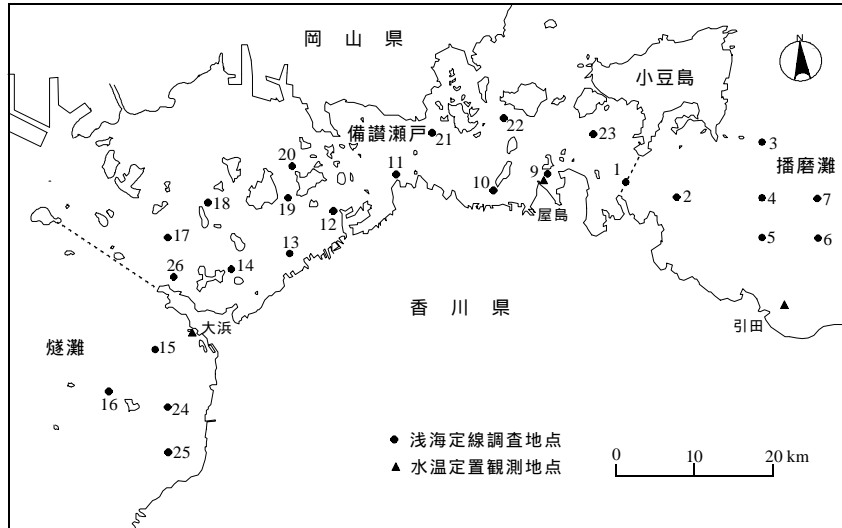


香川県漁海況速報 平成16年 4月 (H16- 1号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成16年4月1日(播磨灘) 5日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めから著しく高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「かなり低めから著しく高め」、溶存酸素は「かなり低めからやや低め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	11.3	10.9	10.3	32.7	32.9	33.1	12.1	6.10	5.83
	平年値	10.3	10.0	9.6	32.4	32.4	32.5	8.8	6.50	6.23
	平年偏差	1.0	0.9	0.7	0.4	0.5	0.5	3.3	-0.40	-0.40
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	著しく高め	かなり低め	かなり低め
備讃瀬戸	14地点平均値	11.7	11.6	11.6	33.2	33.2	33.2	3.7	5.83	5.81
	平年値	10.4	10.3	10.5	32.6	32.6	32.8	5.5	6.25	6.24
	平年偏差	1.3	1.3	1.1	0.6	0.6	0.4	-1.8	-0.42	-0.43
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	かなり低め	かなり低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	12.6	12.0	11.7	33.2	33.5	33.6	5.5	5.91	5.54
	平年値	11.4	10.6	10.3	32.8	33.0	33.1	8.3	6.35	6.03
	平年偏差	1.2	1.4	1.4	0.3	0.5	0.5	-2.8	-0.44	-0.49
	状況	かなり高め	著しく高め	かなり高め	平年並み	やや高め	やや高め	かなり低め	かなり低め	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

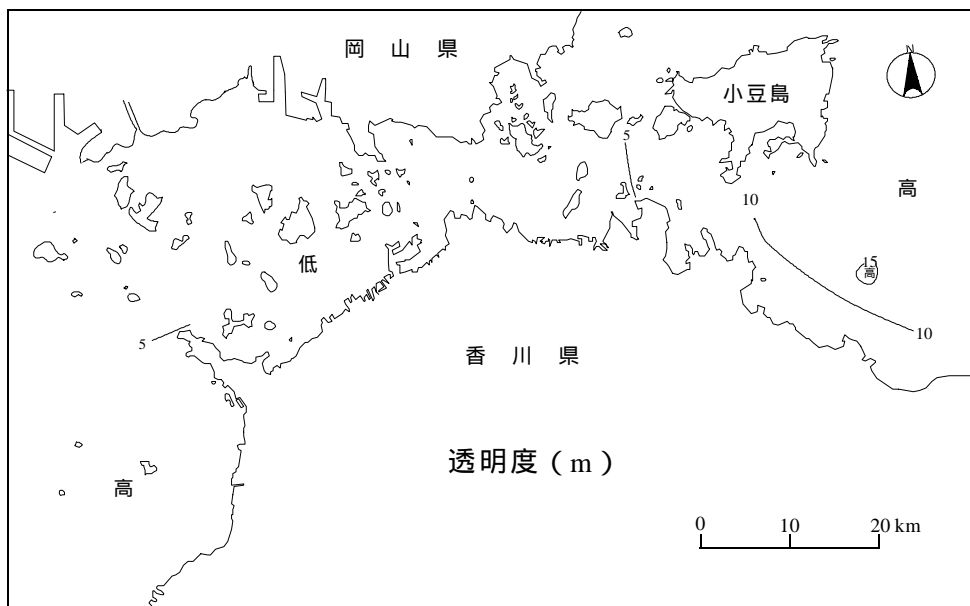
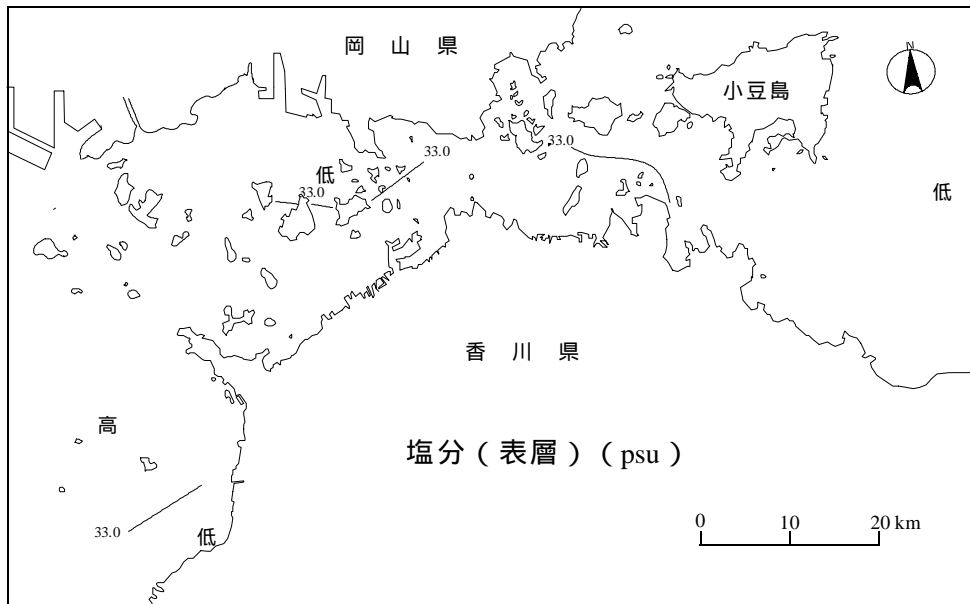
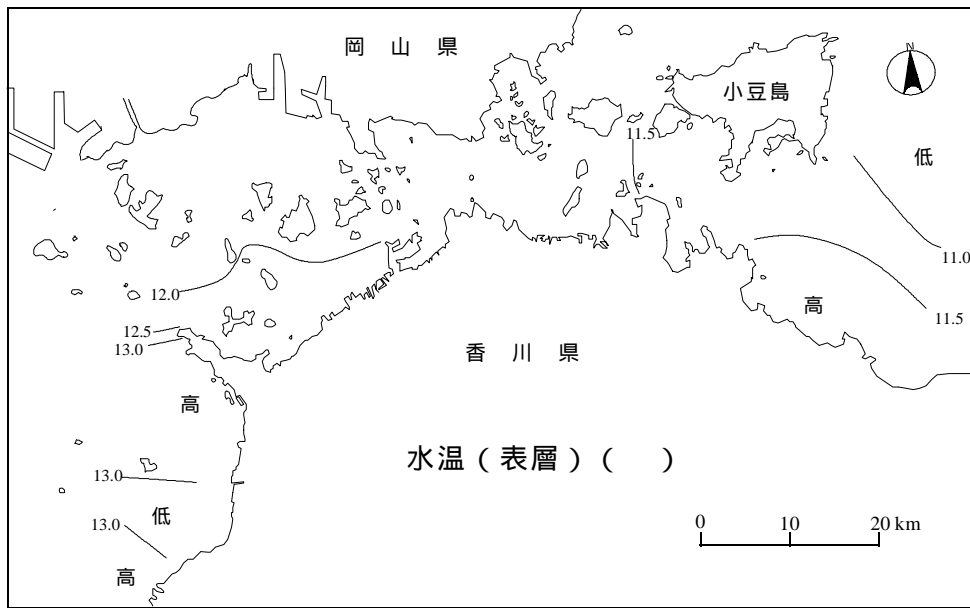
水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み 0 平年偏差 < 0.6 (: 標準偏差)

やや高め(やや低め) 0.6 平年偏差 < 1.3

かなり高め(かなり低め) 1.3 平年偏差 < 2.0

著しく高め(著しく低め) 2.0 平年偏差



2) 定置観測(水温)

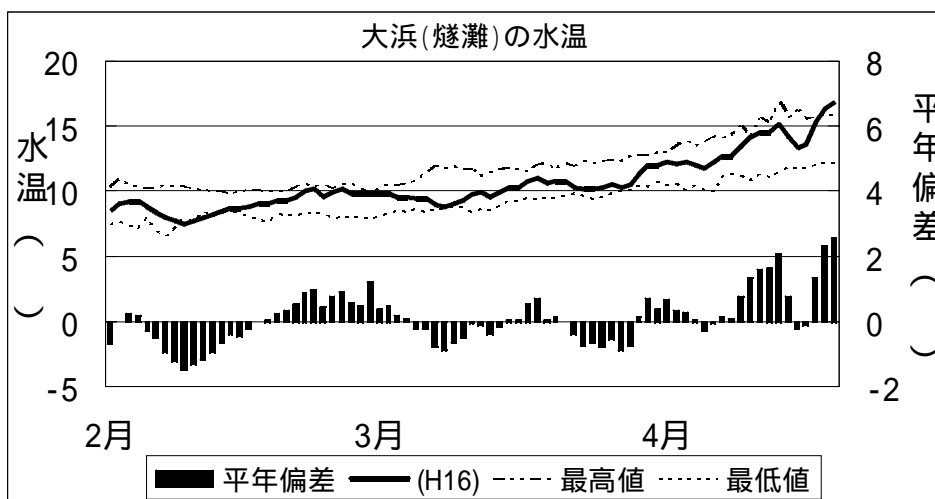
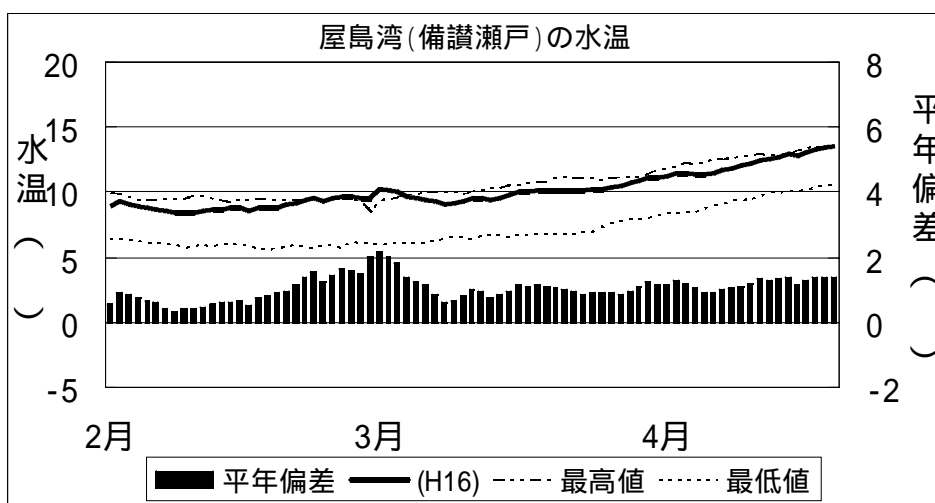
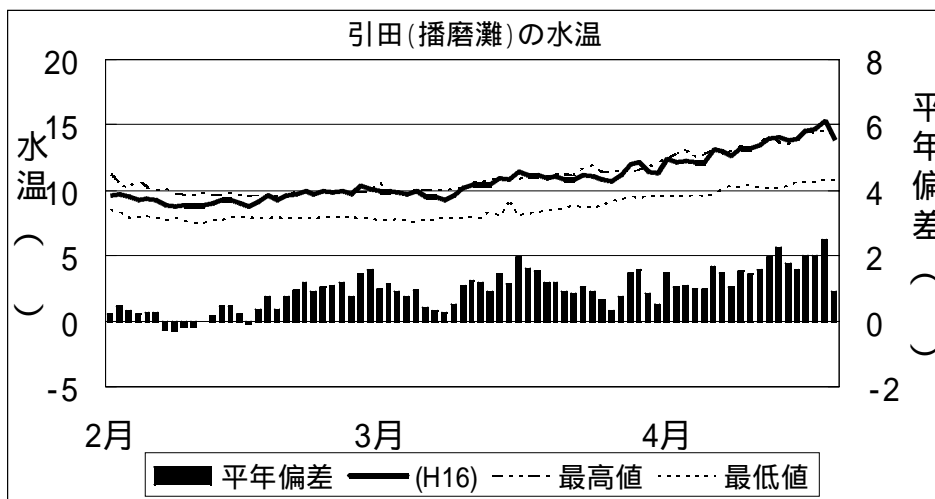
播磨灘(引田): 3月に入ってから平年偏差が 1.2 前後で推移していたが、4月中旬より偏差が大きくなり、2 前後で推移している。

備讃瀬戸(屋島): 3月上旬に入り平年偏差が 2 から 1 前後に低下し推移していたが、4月中旬から偏差が少し大きくなり 1.3 前後で推移している。

燧灘(大浜): 3月上旬から平年偏差が - 1 から 1 前後の間変動していたが、4月中旬から上昇し、2 から 0 前後の間で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年

屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。
 備讃瀬戸：発生なし。
 燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成16年4月1日（播磨灘）、5日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.33	0.60
燧灘平均	1.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.86	0.14
総平均	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.87	0.37

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	-	-	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	-	-	0.0%	0.0%
燧灘平均	2400.0%	-	0.0%	0.0%
総平均	2400.0%	-	0.0%	0.0%

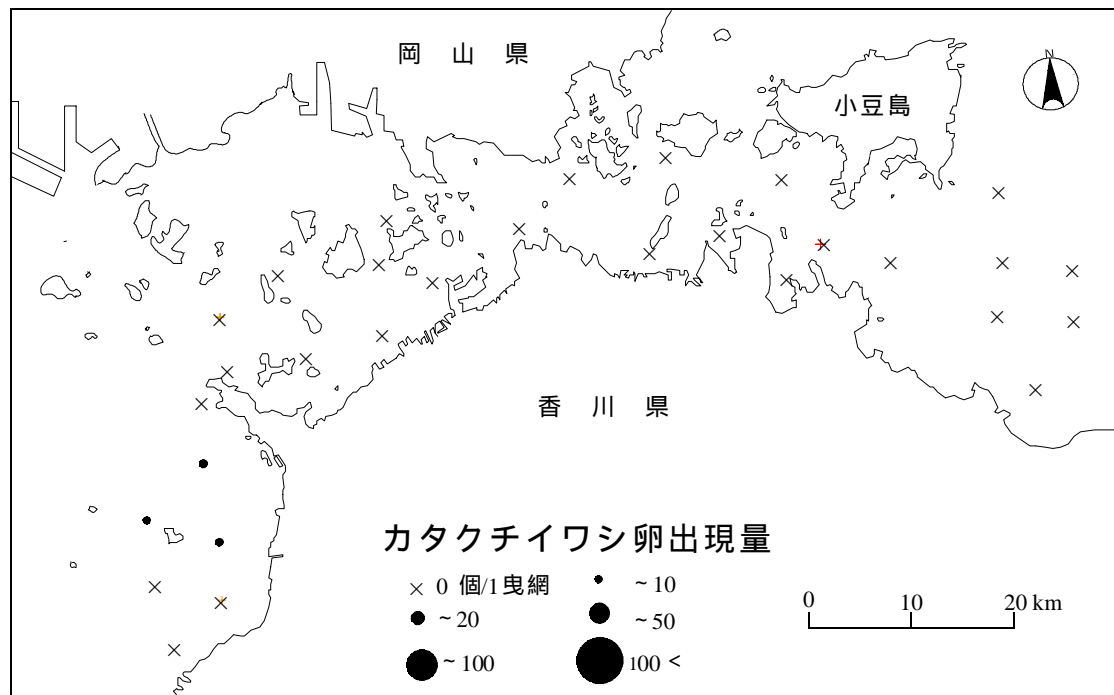
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成15（2003）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成15（2003）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

3月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網は全般的に低調で、クラゲが多い。 舩網ではスズキ、マダイ、ウマヅラハギ、クロダイが漁獲され始めたが、前年に比べて漁獲量は少ない。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、イイダコが漁獲されている。 中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は4月4日で漁期を終了した。漁獲量は前年を上回ったが、金額は魚価が安かったため大きく下回った。 高松・庵治沖のイカナゴ込網の3月末現在のフルセの漁獲量は860トンで、近年では最も多い漁獲量であったが、3月中旬以降から始まったシンコ漁は前年同期の14%と不振であった。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小エビ類、シャコ、メイタガレイ、テナガダコを漁獲している。 舩網は3月15日から漁期が始まり、主にウマヅラハギ、マダイ、スズキ、ヒラメ、クロダイ、シリヤケイカが漁獲されているが、ウマヅラハギ、スズキ、シリヤケイカが多い。 さより機船船びき網は4月11日から漁期が始まり、漁期当初の漁獲量は200kg/日・隻前後あったが、大きさが中、小主体で魚価が安い。</p>